

札幌ロータリークラブ 90周年記念例会・祝賀家族会、盛大に開催される

札幌ロータリークラブ

幹事 日浅 尚子

札幌ロータリークラブは、創立90周年記念例会（第4314回）と記念祝賀家族会を12月14日午後5時から札幌グランドホテルで開催しました。コロナ感染予防のため、誠に勝手ながらごく内輪の会とさせていただき、石丸修太郎ガバナーのご臨席のみとさせていただきました。そのような状況にも関わらず、スポンサークラブである東京ロータリークラブならびにたくさんのクラブからお祝いのメッセージを頂戴しました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

記念例会では石丸ガバナーから90年にわたる活動のご評価と100周年に向けての激励のご祝辞を、そして、お父上（伊藤豊次会員）が札幌ロータリークラブのチャーターメンバーであった伊藤義郎会員（96歳 国際ロータリー元理事）からは記念スピーチをいただきました。90周年記念事業として

- ①これまで周年時に札幌市等に寄贈した銅像、日時計などの現況調査と整備
- ②記念誌発行
- ③寄付
- ④資料のデータ保存等

などの活動を考えており、その進捗状況についても本例会にて報告致しました。

例会終了後には出席者全員で集合写真を撮影し、親睦委員会の企画運営による祝賀家族会と進みました。さっぽろ名妓連所属の芸者衆による祝いの踊りで幕開け。

会場が盛り上がったのは90年をたどるスライド上映でした。スライドは、創立以来の活動が写真で残されていたから制作できたわけで、会員皆、クラブの活動記録や資料の保存の大切さを再確認したと思います。

さらに、80年以降の活動が紹介されると、現在も在籍しているメンバーのまだ初々しい写真も多く紹介され、テーブルから大きな拍手や笑い声上がり、会場全体がいっそうなごやかな雰囲気となりました。

札幌ロータリークラブ独自の活動で今年設立50周年の「若い人と語ろう会」（会員企業の若手社員による会）からも約20人が参加してくれました。

記念例会、記念祝賀家族会は、担当の会員、委員会が大汗をかいて事前準備し、当日は最大の緊張感をもって運営をしました。加えて、事務局や会場の札幌グランドホテルの皆さんなど、日々札幌ロータリークラブを支えてくださっている方々がいなければできなかったことです。

大原雅会長は今年度のスローガンを「集う」「知る」「紡ぐ」としました。記念例会、記念祝賀家族会を通じて、このスローガンに近づくことができたと考えています。

あと10年で100周年を迎えます。一連の90周年事業の検証と反省を忘れず、100周年につなげていきたいと思っています。

